

院長 コラム

一緒に考えましょう

健康のこと
医療のこと

63

地域医療構想



市民病院
院長 神谷里明

皆さんが今までにかかった病気、けがなど日本は世界的に見て人口あたりの病床数が多く、特に急性期の病床が過剰と言われています。それを適正な数にするための話し合いが医療圏ごとに行われてきました。

この地域は海部医療圏とされており、急性期を担うのは海南病院、津島市民病院、あま市民病院の3病院です。海南病院は三次医療機関であり、二次医療機関としては津島市民病院のみです。全国各地でこの話し合いは行われてきたのですが、なかなか結果が出ないこともあり、2019年9月26日厚生労働省より再編・統合再検証対象病院として全国で424病院、愛知県内では9病院の公立・公的病院の名前が挙がり、津島市民病院がそのひとつとして名前が出ました。

急性期病床が全国的に過剰にあり、効率が悪いです。あまり機能していない、または似たような機能を持った病院が近くにある場合、あまり機能していない病院はダウンサイジングや統廃合を行い、機能も人も集約化し、効率の良い医療の提供を目指すというものです。

今回の病院名の発表は、全国一律に症例数が少ない、近隣に同じような機能の少し大きな病院があるなどの基準で名前が公表されました。しかしながら各地域の状況は異なっており、病院の再編、統合が困難であったり、現実には合わないような病院が対象となっている場合があります。反論が多く出されています。

この地域においては、救急医療に関しては海南病院ひとつでは全ての受け入れは困難であり、二次救急病院として当院の役割は大きいと考えます。津島市民病院は災害拠点病院にも指定されており、南海トラフ地震などの災害時に地域を守る要となる役割があります。救急の受け入れや災害時に対応可能な機能を保つためには内科、外科、脳神経外科、整形外科などがいつでも対応できる体制を整える必要があります。この地域に必要とされ、なくてはならない病院として今後も体制、機能を維持していきます。